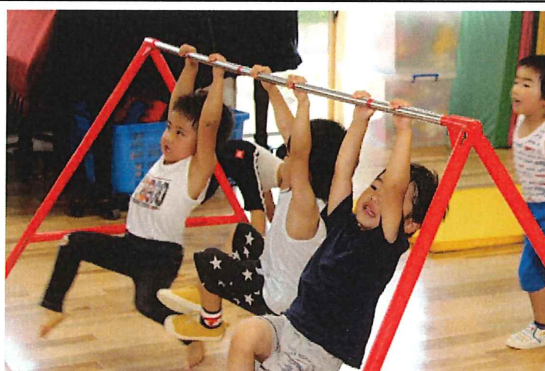


公開保育による施設関係者評価

日時	令和3年7月2日（金） 午前10時～11時30分
会場	当園舎
評価者	講師 青森中央短期大学准教授 兼平友子先生
	第三者委員木津谷とき子氏（民生委員）、第三者委員菊池義孝氏（民生委員）
	園長一戸義雄、主幹保育教諭浅井弘子、副主幹保育教諭今井景子、専門リーダー八木橋亜紀、専門リーダー山田真樹、年長児担任赤城由起子、4歳児担任小田朝香
経緯	5月19日：文書による概要説明と来園（講師・第三者）依頼 7月2日：当日文書による指導案配布（別紙：公開保育指導案参照） 8月17日：評価票の提出
施設関係者	園長一戸義雄、主幹保育教諭浅井弘子、副主幹保育教諭今井景子、専門リーダー八木橋亜紀、専門リーダー山田真樹、年長児担任赤城由起子、4歳児担任小田朝香
内容	公開保育を行ない、予め当園で用意した評価票を使って評価を行う。評価票には保育の内容に関する4項目、園児の様子に関する4項目、保育者の姿勢等に関する6項目の計10項目を3段階で評価する。その他、感想やもっと良い教育保育になるための視点を記入する。
	学識者青森中央短期大学准教授 兼平友子先生、当園の施設関係第三者委員木津谷とき子氏、菊池義孝氏、施設長、職員7名で評価を行った。
対象児	年少児 かなりや組
指導者	年少組担任 山田真樹保育教諭
結果	以下記載

公開保育の様子



- チームに分かれて座り、実際の鉄棒を見ながら、保育教諭の話の聞いたり発問に答え、鉄棒遊びに対する興味や関心を持つ。
- けがをしないための体操を行う。
 - ・動物クイズに参加し、動物になっての体操を楽しむ。
- 鉄棒遊びを楽しむ。
- ①鉄棒にぶら下がり、足をバタバタさせる。
 - ・みんなで一斉に、鉄棒をつかんだ格好で座り、足をバタバタさせる活動に取り組む。
 - ・実際に鉄棒で取り組む。（初回は2チームずつ1回取り組んでみる）（帰りはマットの上で動物体操をする）
- ②鉄棒にぶら下がり、足を開いて閉じる。※一連の流れは①と同じ。
- ③鉄棒にぶら下がり、おしりをふりふりする。※一連の流れは①と同じ。
- チームごとに座り、活動を振り返り、楽しかったこと、頑張った事等を発表する。

評価項目	◎ (よい)	○ (普通)	△ (努力)	単位
テーマの設定について年齢に対し適切でしたか	100	0	0	%
ねらいに沿った教育保育が行えていましたか	100	0	0	%
幼保連携型教育保育要領の内容に沿った教育保育が行えていましたか	100	0	0	%
予想される子どもの姿や環境指導ポイントは適切で	100	0	0	%
幼児は主体性を持って取り組んでいましたか	100	0	0	%
園児同士声を掛け合ったり、伝え合っていましたか	83	17	0	%
園児は楽しんで取り組んでいましたか	100	0	0	%
園児は理解して取り組んでいましたか	83	17	0	%
時間配分は適切でしたか	100	0	0	%
教具・教材を適切に利用できていましたか	100	0	0	%
保育者の園児に対する態度や言葉遣いは良かったですか。	100	0	0	%
保育者の声や大きさや早さは園児に伝わりやすかったですか。	100	0	0	%
保育者同士の連携はうまくいっていますか。	100	0	0	%
保育室の整理整頓、清潔にしてありましたか。	100	0	0	%

感想

・公開保育、本当にお疲れさまでした。外部からのゲストを迎えて行う参観はとても緊張するものですが、先生の姿は堂々たるもので、運動する楽しさを十分味わわせていました。

子どもたちを活動に引き込む準備（導入）が十分になされた結果であり、仲間である先生方のお手本にもなった様に思います。

進級児、進入児の入り混じった3歳児クラス（推測ですが）まだ3カ月より経っていないのによくまとめていました。先生の手腕が大いに成長を促していくことでしょう。

・子どもたちの運動する楽しさが感じられた。また、運動の苦手な子への配慮として、順番を守る必要性も感じた。

・昨年の鉄棒遊びの経験をさらに発展できた内容で、視聴覚教材から耳で聞いた事を想像したり、遊びも意欲的主体的に活動できていたことも良かったと思う。

同じ動作の繰り返しの中にも、子ども自身が試行錯誤しながら楽しんでいる様子が見られていて、遊びを通して自発性や意欲の育ちを感じた。

本園の目標としての「たくましく思いやり豊かな子」を達成するためのねらいが結びついていて良かったと思う。

担任保育教諭の表情もよく、日頃の積み重ねの成果が表出されていた。お疲れさまでした。

・保育者がモデルになり、実際にやって見せていく中で、子どもたちが興味や関心を持って参加することができ、楽しんでいる姿を見て、こちらも嬉しくなった。

・引き続き日々の教育保育を大切に、今のまま頑張っしてほしいと思う。公開保育お疲れさまでした。

・イラストを使って視覚で分かるように説明を行っていてわかりやすい。みんな楽

感想	<p>しんで体を動かしていた。「うさぎになろう」の声掛けに、子どもたちはすぐに反応し模倣できていたので、普段からそういった活動を取り入れている事が分かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ→動物の真似っこ遊びと展開が早く、ワクワク感がある。 ・鉄棒にマークを付けて分かりやすい。 ・保育者が自らやってみせ、分かりやすく、子どもたちのやりたい気持ちを高めていた。 ・個別にも声をかけ、無理なく誘いかけていた。 ・クールダウンをし、気持ちを落ち着かせて活動を終えていた。 ・一つ一つ動物クイズをして、写真(視覚教材)を出すことで、動きを想像して行っていて分かりやすかった。 ・一つの鉄棒でやる内容を決め、ぶら下がったり、足やおしりをフリフリしたりして、沢山の動きに取り組んでいたのが良かった。 ・帰る際には、その動物の動きをするようにしたことで、クイズに出た動物の動きを楽しんでいる様子がみられた。 ・やりたがらない子一人ひとりにも声をかけ、優しい口調で活動に入るよう促して良かった。 ・公開保育を行うにあたって本当にお疲れさまでした。日々の子どもたちとの関わりがとても良い関係性であるということが、子どもたちとの安心した表情や素直な言葉、のびのびとした動きを見て十分に伝わってきました。保育ではこれが一番ですよね。子どもたちのことを一生懸命考えて、保育を考えて・・・とご苦労なされた先生方の思いが子どもたちにしっかりと伝わっているのが分かりました。
もっとよい教育保育になるための視点	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に遊ぶために、1回終わった後に注意すべき点を子どもたちと一緒に考えることで、注意力が増すと思った。 ・カンファレンスでも少し触れましたが、遊びを楽しませる中で安全に遊ぶための導入をしていましたが、活動の中で、「○○ちゃんの手の握り方上手」などと褒めてあげる事で、子どもたちは褒められるという意識が働き、目標のステップとして繋がっていくことなのでしょう。 ・楽しい活動は、第三者委員の助言から安全教育に支えられている事に気付くことができた。集団での楽しさを更に進めていくと同時に、個の運動機能の発達や能力の獲得についても、子どもの発達の育ちを把握したり、個と集団の関係性についても、相互に検証しながら、年齢やクラス集団の発達にふさわしい活動を計画していけたら思う。 ・先生自身の反省もいくつか出ていましたので、反省点を生かしていければもっと良くなると思います。幼児期の終わりまでに育てたい10の姿をいれつつ、日々の教育保育に今まで通りに取り組んで下さい。 ・個々の心の発達から、悔しい気持ちが強くでたり、同じ子だけが勝ったりすることも多くなるため、ルールや設定の仕方など、その都度工夫が必要となる。様々な遊び方を考えていきたい。 ・もう少し笛の音が低くても良かったかも。 ・遊びを更に色々な領域に広げて、子どもたちが様々な体験を豊かに経験できるように広げて行けたらと思う。 ・今回負けて悔しいなど、子どもの発達は連続しているので、新たな発達が見られた時は今回の様に、個の気持ちを全体に広げながら、自己発揮と自己抑制の感情がコントロール出来るようになっていくと思いますので、瞬時瞬時、環境を再構成して子どもの発達に働きかけていくことの大切さを認識出来ました。 ・子ども達が楽しい園生活を送れるように、お互いに意見交換を活発にしお互いの意見を尊重し、更なる保育の質向上を目指して行くことを期待しています。 ・2歳児になると自我の要求が強くなり、その行動が思い通りに出来ず癩癩が見られるなど、生活全般にわたり養護に手のかかる年齢だと思います。今日のように楽しい生活が過ごせるように、先生方のチームワークが(連携)とても大切になります。お互いの意見を尊重しながら、保育のスキルをアップして行く事に期待しています。
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・活発な3歳児の子どもたちに丁度マッチした先生の表情と声のトーンだと感じた。 ・初めの動物になったの体操が、次の鉄棒に繋がる運動になっていたのと、鉄棒に挑戦した帰りのマットの上での運動にも組み入れたことで、活動全体がねらいに向けた一つの流れとして運動が繋がっていたように思う。 ・「筋肉もりもりにしよう」となげかけたことで、この活動でどうなればよいのが子どもたちにも分かりやすく伝わっていたと思う。

講
評

・今回取り上げた鉄棒遊びでの活動（鉄棒にぶら下って足をバタバタ等）は子どもたちにとっても難しすぎず、どの子も挑戦しようと思え、また「できた!」という喜びも感じられるような丁度良い活動内容であったように思う。

・最後に子どもたちが放していた感想からも、充実した活動ができていたことが伺えた。子どもたちは今回の鉄棒遊びに意欲的に取り組んでいたのも、ぜひともこのまま鉄棒に対して苦手意識を持たないような活動の工夫をこれからも取り組んでほしい。



園長	主幹保育教諭	担任
		

かなりや組 (3歳児) 17名

担任名 山田真樹

月のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを深めながら、生き物や友だちとの関わりが楽しくなる。 水の感触や心地よさを味わう。 衣服の着脱や始末を自分でしようとする。
日のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 水分補給や汗の始末など、夏の生活に必要な習慣を身につける。 保育教諭や気の合う友達と同じ遊びをすることを喜ぶ。 遊びを通じてさまざまな運動刺激を受けることで、体の動かし方や力のコントロールのしかたを身につける。

本時案

時間	教育・保育の流れ	環境の構成	保育教諭等の援助・指導上の留意点
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ● チームに分かれて座り、実際の鉄棒を見ながら、保育教諭の話の聞いたり発問に答え、鉄棒遊びに対する興味や関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● チームごとに座る場所を設定する。 ● 鉄棒を大中小各2つずつ設定する。 ● 鉄棒に取り組む人数が分かるように印をつけておく。 ● スタートの待つ印をつける。 ● 力持ちについての紙芝居を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄棒遊びに対する興味や関心が持てるような導入や働きかけを行う。 ● 「これ(鉄棒)は何ですか?」 ● 「この鉄棒は何色ですか?」 ● 「(鉄棒の大きさを比べて)大きいですか?小さいですか? 中位ですか?」 ● 「鉄棒にぶら下ったりして遊ぶと、力持ちになるんだって! やってみたい?」 ● 保育者の発問に対する個の意見が集団に伝わる様に、みんなで復唱してみたりする。
	<ul style="list-style-type: none"> ● けがをしないための体操を行う。 ● 動物クイズに参加し、動物になっての体操を楽しむ。(うさぎ、くま、うま) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 動物クイズを用意する。(動物カードも) ● のびのびと体を動かせる場所を設定する。 ● マットを立て、コースをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一斉に行うが、ぶつからないように注意を促す。 ● 意欲が持てない子には、個人的に働きかけていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄棒遊びを楽しむ。 ① 鉄棒にぶら下がり、足をバタバタさせる。 ● みんなで一斉に、鉄棒をつかんだ格好で座り、足をバタバタさせる活動に取り組む。 ● 実際に鉄棒で取り組む。(初回は2チームずつ1回取り組んでみる)(帰りはマットの上で動物体操をする) ② 鉄棒にぶら下がり、足を開いて閉じる。※一連の流れは①と同じ。 ③ 鉄棒にぶら下がり、おしりをふりふりする。※一連の流れは①と同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● マットを左右1つずつ設定する。(鉄棒が終わって帰際の動物体操用) ● 帰りの動物体操のカードをホワイトボードに表示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育者がモデルになり、実際にやって見せながら説明しすすめていく。 ● ルールを簡潔に伝える。順番を守る事、笛の合図を聞く事。 ● 初回は流れをつかむため、2チームに分かれ、少ない人数で取り組ませ、援助が行き届く様にする。 ● 待ち時間を少なくし、熱中して楽しめるようにする。 ● 流れにのれず戸惑う子には、個人的に働きかけ、流れにのれるようにリズムをつくる援助をする。 ● 個の良い取り組みや頑張り、集団に広めていけるように働きかけていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ● チームごとに座り、活動を振り返り。楽しかったこと、頑張った事等を発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 自発的に発表する子に発表してもらいながらも、発表しない子も色々な意見に共感したり、個を集団に広げていけるようにする。 ● 子ども達の楽しい気持ちや頑張り、共感していき。

評価・反省	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育教諭や友だちと一緒に同じ遊びに興味や意欲を持って楽しむことができていた。友だちの様子にも興味を持って見たりできる様な働きかけや環境作りにも留意していきたい。 ● 体の様々な部位を動かしてみる経験に繋がり、力や体のコントロールの仕方が少しづつ身につけられている。 ● 水分補給や夏の生活について、ねらいや当日急遽時間を設けたものの、環境設定の中に組み込んでいなかったため反省点である。
-------	---